No. 1197

1976年、総集編

ロッキード この一年

長く、そして短かい一年。数々の話題を残して1976年も暮れようとしている。1976年の不幸なトップニュースはロッキード献金事件であった。
全日空エアーバス、トライスターの機種選定にあたりアメリカ・ロッキード社から児玉誉士夫や日本の政府高官に多額の献金がされていたことが判明。事態を重視した国会はただちに証人を喚問した。
「知りません」「関係ありません」「記憶にありません」と逃げの一手に終始する証人。これと言う手掛りはつかめず、国民の間に不信感がつのった。暗いニュースの続くさ中五つ子の赤ちゃんが無事退院したのがわずかにほほえましいニュース。
少年たちはスピードに狂い、大人たちはギャンブルに熱中した。少しばかり、はしゃぎすぎると言われながらも、三木首相はロッキード事件の徹底究明を約束。検察当局はかねて、その頂点とみられていた田中前首相を逮捕、さらに橋本、佐藤の運輸議員も逮捕した。
国民不在のまま、どこまでもくりひろげられる自民党内の政権抗争。三木派と反三木派の激しい対決が続く。反三木派は議員総会を開き三木ひきおろしを強行した。こんな政治に嫌気がさした河野洋平氏ら6人の議員は自民党を離れ新自由クラブを結成した。
東海、中国、四国地方などに記録的な豪雨を降らせた台風17号、岐阜県では長良川が決壊した。死者は170人を越え、被災者は33万人にものぼった。
航空ショーが人気を博すなかで、ミグ25事件は日本の防衛問題に波紋を投げた。
「証人の宣誓を拒否します」三木首相へのニセ電話事件、重要人物、鬼頭判事補の宣誓拒否が逆にロッキード事件の複雑さを証明した。
「ロッキード問題は簡単な問題です。すぐに解明され、私の無実は証明されるでしょう」地元民と密着した田中前首相は総選挙で訴え、楽々とトップで当選した。
だが、ロッキード事件の影響は大きく、自民党は惨敗を喫した。三木首相は責任を取り退陣を表明した。1977年、日本は新しい首相を迎えてスタートする。しかし、その前途は険しく厳しい。